

草地區負八十數名を動員村公報を取消し謝罪を要求して大衆的デモ(示威)を村役場へ殺倒した。村長不在のため自宅へ押しかける騒ぎに役場吏員は是非亦二日に会見する事にする。二日に会見する事に約して引止めた。廿二日和可山市にて榎見増一と組合側代表米田俊藤田村、大木と会見。村公報も取消し謝罪状一札と農民組合宣傳演説会を全村にて開催し。会場の設備其の他一切、斡旋する事を條件と解決せり。

(六) 北海道東地才釧路農民救済運動

全農聯主部では各無産団体へ北海道東地才釧路農民救済運動を提唱し和可山合同労働、一般木材労働、和可山化学産業、労大党、協力に依り無産団体共同救済会を組織し和可山市の街頭に進出、労働者、市民、破市民層にアピール(一)して多大の効果を収めた。

(七) 和可山築港反対農民大会

一九三二、三、八築港反対農民大会には多数の未組織をも動員し闘った。

(八) 輝ける犠牲者歓迎デモ

一九三〇年六月十八日未明、日高地區に暴襲した。立入禁止を農民の大衆的行動に依つてケートハン遂に地主資本家の裁判所のためと徴役三ヶ月を告げられ反動支配に対する燃ゆる恨を各人で下獄服役中の吾が縣聯の輝ける犠牲者、カ津負次郎、中野若三郎、カ津文太郎の三君は去る七月十三日和可山刑務所を出所した。これに対して常任委員会では米田常議部長を日高地區に送り三百余名を動員これを迎へ御坊駅前にて大島地區委員長の歓迎の辞に對しカ津負二郎君犠牲者を代表して歓迎の同志に對して新しき闘争を誓ひ御坊駅前より農民歌高らかに志賀支那へ向け勇敢なる歓迎デモを行った。

(九) 常任委員会では左の指令達示を發行し單議の指導難達に努めた。

第一表